



発行所 三豊教育会館内 香教組三豊支部 編集人情宣部 TEL 0875-25-3761 http://www.niji.jp / home/kazuo-t / mitoyosibu1

多忙化・長時間過密労働を解消し、正規教員の増員をせよ！ =組合= 市独自で加配を考えたい！ =教育長=



要求を聞き取る十河聖司教育長



要求書を渡す澁谷会長（左）と大原一仁教育長

「三豊・観音寺市教委に30人以下学級実現など要求」
三豊・観音寺の教育をよくする会（澁谷光博会長）は署名に協力してくれた諸団体の仲間と共に一月三十一日観音寺市の十河聖司教育長、二月二日三豊市の大原一仁教育長に少人数学級拡大などを要求しました。

パワハラ・困った時の相談は、香教組・三豊支部へも連絡OK！

三豊市教育委員会教育長 大原 一仁 殿
観音寺市教育委員会教育長 十河 聖司 殿

三豊・観音寺の教育をよくする会会長 澁谷光博

ゆきとどいた教育を求める要求書

【要求の趣旨】
いま貧困と格差拡大が子どもたちの教育に大きな影響を与えています。私たちは日本国憲法、子どもの権利条約に基づいて、すべての子どもたちに確かな学力と民主的な人格を形成する教育を実現しなければならないと考えています。こうした趣旨の下に「ゆきとどいた教育を求める香川県署名」に取り組み、今年度は三豊・観音寺市で約1600筆を集約しました。その活動の中で、三豊・観音寺の教育について以下のような声があがっていました。早急に改善されるよう強く要求します。

【要求事項】
1 教職員の過労死を招く変形労働時間制を市で強制しないでください。
2 全国学力テストや学習状況調査はやめるよう働きかけてください。
3 子どもと直接向き合う正規の教職員を増員するよう国や県に働きかけてください。そして、20人学級を実現するよう国や県に働きかけてください。また、特別支援学級の定員数を改善するよう国や県に働きかけてください。
4 教職員の勤務時間を守るよう指導してください。また、教職員の多忙化を解消するために多忙化の原因を分析し、多忙化を解消してください。
5 小・中学校の教材費、給食費など学校納付金を無償にしてください。
6 小学校の外国語活動、ICT教育について、子どもたちや教師の負担増にならないようにしてください。
7 子どもたちに安全でおいしい給食を提供するために、地産地消の推進、そして、安全な食材で、ていねいな調理をしてください。また、大型給食センター建設は、PFIまかせにしないで災害に強いものにしてください。
8 小中学校をこれ以上統廃合しないでください。もし、統廃合するようなことが持ち上がった場合、地域住民の意見をしっかりと聞くようにしてください。
9 その他 (パワハラ・学校訪問の簡素化・ICカードのデータの公表・不登校)

十河聖司教育長は、「一年単位の「変形労働時間制」について、「策の一つと考えているが、今のところ運用を考えていない。」と答えた。
よくする会の「過去問題実施や平均点偏重主義にならないように。」の質問に対して、「一つ一つの指標と考える。本来の目的の達成や先生方の負担にならないようにしたい。」と答えた。
30人以下学級実現に対しては「学校統廃合で地域が衰退する意見に対しては、「地域にとって、子どもたちにとっても、大切な問題。慎重に進めて行く必要がある。」と答えた。

「全ての小中学校で35人学級が実現した。定数改善など要望はしている。特別支援学級の加配なども県にお願いしている。」と回答した。
多忙化解消・正規教員増員については、「在校等時間も調査は減少傾向にある。コロナ禍明けに、そのまま行事を戻すのではなく、行事等も精選していつてもらっている。」と回答した。
給食費無償化については、「7年に新しい法改正があり、それを目的に給食費無償化を考えている。」と答えた。
ICT環境に関して、「アドバイザーを3名(市費で)配置している。PCの修理はケースによるが、市から予算をつけている。」
学校統廃合で地域が衰退する意見に対しては、「地域にとって、子どもたちにとっても、大切な問題。慎重に進めて行く必要がある。」と答えた。

大原一仁教育長は、「一年単位の「変形労働時間制」について、「市ですることはない。活用の事例も聞いていない。」と答えた。
全国学力テスト・学習状況調査などの過去問題をもうやめてはどうか。の意見に「学習状況を調べることは大事だが、過去問題をするのは意味がない。負担が大きいところは軽減したい。」と答えた。
「正規の教員の増員を。」の要望には、「市独自でも加配を考えて行きたい。特別支援学級の定数8人については校長会でも毎回意見が出ています。市では特別支援教育について手厚くしていると思っています。更に継続する。」と答えた。
多忙化解消を進めよ。という意見に関しては、「(残業が)

80時間を超える人は確認(指導)している。各学校によって差がある。早く帰れている学校もある。」と述べた。
給食費無償化については、「来年度する予定はない。今までの金額をそのまま、質を落とさないように考えている。」
ICT環境に関して、「マイズムや市の専門職員もいる。タブレットの破損の場合は、市の保険を使うことができる。」と述べた。
教員採用試験「職免」扱いについて、「その方向で考えている。県教委からの連絡を待っている。」と述べた。組合からは、「職免」扱いの件は、お金もかからないし、誰も困る人はいない。市の責任で早急に実現するよう再度、確認した。

変形労働時間制!?

○香川でも「一年単位の「変形労働時間制」を導入できる改正給特法」が法制化された。しかし、学校現場は年中忙しく、学期中が繁忙期だからといって勤務時間を延ばせば、仕事量は減っていないので、更に退庁時刻は遅くなる。長期休業中は閑散期と言われているが、仕事や部活動もあり実際休めていないのが現状である。学期中の、夕方時間の子どもへの迎え、食事の世話、通院などに、**年休を取得する必要**が出てくる。1日8時間以上働かせるのは**不健康**である。これ以上、ブラック企業化させないため、運用の強制には、皆で反対の声を上げよう。

「さび分け」!

○コロナ禍の中、県教委との交渉で、前工代教育長が「コロナ禍のこの時期は、(行事や業務など)いるかいらなにかを考える『さび分け』の時期なのかも」とコメントしていた。5類となった現在、各現場はまた以前のように忙しい毎日を送っている。「いるものは残すが、いないものは捨てる。」という、『さび分け』を、現場、教育委員会が協力して、やるべきではない!

